

伊丹ルーテル教会 主の洗礼日礼拝

2021年1月10日

前奏：

招きのことば：詩編 29 編 1-6,11 節

【賛歌。ダビデの詩。】神の子らよ、主に帰せよ 栄光と力を主に帰せよ
御名の栄光を主に帰せよ。聖なる輝きに満ちる主にひれ伏せ。
主の御声は水の上に響く。栄光の神の雷鳴はとどろく。主は大水の上にあります。
主の御声は力をもって響き 主の御声は輝きをもって響く。
主の御声は林の木を砕き 主はレバノンの杉の木を砕き
レバノンを子牛のように シルヨンを野牛の子のように躍らせる。
どうか主が民に力をお与えになるように。主が民を祝福して平和をお与えになるように。

罪の悔い改めと赦しのことば：

会衆：私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。
思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に
罪人です。神様、本当にごめんください。私たちは祈ります。私たちが救うため あなたが
お与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。
(短い黙祷を持ちましょう)

牧師：何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・
キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ
務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言 します。父と、御子と、聖霊のお
名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。アーメン。

み言葉の部

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、
十字架につけられ、死して葬られ、
陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天に昇り、父なる全能の神の右に座したまえり。
生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

**我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだの
よみがえり、限りなきいのちを信ず。 アーメン。**

祈り

愛とあわれみに満ちておられる私たちの父なる神様、

クリスマスにお生まれになり、十字架への道を歩まれたイエス様は、私たちの苦しみや悲しみ、試練や誘惑をご存知です。私たちはイエス様の御生涯と死と復活によって、神さまがたしかに私たちを大切に、見捨てずに、見放さずに、救いに導いてくださるお方であることを知ります。私たちは洗礼によって私たちはイエス様とひとつにさせていただき、今週もイエス様の慰めと励ましを受けながら歩むことができることを感謝いたします。

私たちの人生には、山あり谷あり、いろいろな経験が訪れます。神さま、あなたは遠くにいて私たちにがんばるようにおっしゃるのではなく、イエス様を送ってくださって私たちを赦し、私たちを新しくして、わたしたちががんばる力を与えてくださいました。

自分中心に歩む中で、世の冷たさや厳しさに倒れそうになっても、あなたはその真ん中に来てくださって私たちに愛と希望の新しい心を与え、新しい目で人生や社会を見ることができるようになりました。今週も日々の暮らしの中で、ひとりひとりに与えられています使命を、喜びをもって、心を入れて果たすことができますように、私たちを鍛えてください。また、あなたの証し人として人々にイエス様の福音をお伝えすることができますように、どうか私たちを用いてください。そして、互いに愛し合い、高めあう一週間となりますように。

新型コロナ・ウィルスの感染はまた拡大しています。緊張感を保ちながら、その中でも御手にゆだね確信をもって、あなたの子どもとして安心して生き生きと生きる日々を与えてください。この祈りを、私たちの救い主であり主であるイエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン。**

使徒書朗読：使徒 19 章 1-7 節

アポロがコリントにいたときのことである。パウロは、内陸の地方を通過してエフェソに下って来て、何人かの弟子に出会い、彼らに、「信仰に入ったとき、聖霊を受けましたか」と言うと、彼らは、「いいえ、聖霊があるかどうか、聞いたこともありません」と言った。パウロが、「それなら、どんな洗礼を受けたのですか」と言うと、「ヨハネの洗礼です」と言った。そこで、パウロは言った。「ヨハネは、自分の後から来る方、つまりイエスを信じるようにと、民に告げて、悔い改めの洗礼を授けたのです。」人々はこれを聞いて主イエスの名によって洗礼を受けた。パウロが彼らの上に手を置くと、聖霊が降り、その人たちは異言を話したり、預言をしたりした。この人たちは、皆で十二人ほどであった。

福音書朗読：マルコによる福音書 1 章 4-11 節

洗礼者ヨハネが荒野に現れて、罪の赦しを得させるために悔い改めの洗礼を宣べ伝えた。ユダヤの全地方とエルサレムの住民は皆、ヨハネのもとに来て、罪を告白し、ヨルダン川で彼から洗礼を受けた。ヨハネはらくだの毛衣を着、腰に革の帯を締め、いなごと野蜜を食べていた。彼はこう宣べ伝えた。「わたしよりも優れた方が、後から来られる。わたしは、かがんでその方

の履物のひもを解く値打ちもない。わたしは水であなたたちに洗礼を授けたが、その方は聖霊で洗礼をお受けになる。」そのころ、イエスはガリラヤのナザレから来て、ヨルダン川でヨハネから洗礼を受けられた。水の中から上がるとすぐ、天が裂けて“霊”が鳩のように御自分に降って来るのを、御覧になった。すると、「あなたはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」という声が、天から聞こえた。それから、“霊”はイエスを荒れ野に送り出した。

讚美歌 399 番

1. 悩むものよ、とく 立ちて、めぐみの座にきたれや。
 <繰返し> 天の力に いやしえぬ 悲しみは 地にあらじ。
2. さちなき身の 慰めや、悔やめる身の 望みや。 <繰返し>
3. 見よ、命のましみずの み座より 湧きいずるを。 <繰返し> アーメン

説教：「あなたはわたしの子」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

クリスマスに旅先のベツレヘムでお生まれになったイエス様は、マリヤとヨセフの家のあるナザレという小さな村で育ちました。聖書を学び、また家業を助けて普通の生活をなさいました。30歳になって公けの働きを始めるとき、バプテスマのヨハネから洗礼をお受けになりました。そのとき天が避けて、神の霊が鳩のようにくだって、父なる神様がみ声をかけられたのです。天から「あなたはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者」という声でした。

新しい年がはじまりました。遠い将来だけでなく、すぐ目の前のことにも見通しがきかない、先行きに暗い雲が立ち込める今、私たちの内に、また外に、難しい状況がひろがっている今、神さまは何をお語りくださるでしょうか。

第1に、イエス様が洗礼をお受けくださったのは私たちのためだった、ということです。神の御子、罪のないお方が、罪の赦しを得させる悔い改めの洗礼をお受けになる必要はありません。それは罪びとである私たちと同じ立場にご自身をおかれたということです。私たちは自分でどうにもならない罪の性質のゆえに苦しんでいます。私たちは自分の罪のゆえに人に被害を与え、また人の罪のゆえに被害を受けて歩んでいます。私たちは神様の御前に罪びとです。自分のちからで変わることはできません。ものの見方、現実のとらえ方、人生への向き合い方がいびつです。エデンの園で罪をおかしたアダムとエバと同じように、神さまの足音をきくだけで恐れ、身を隠し、神さまを避けようとしています。罪を犯したのは自分のせいではなく人のせいだ、環

境のせいだと言って自分を守ろうと弁解します。自分がかわいそうな存在で犠牲者なのだ、と自分をあわれみ、そこから出て神さまに向き合おうとしません。

罪をおかして神さまを避けようとする私たちに、神さまは愛する独り子のイエス様をお遣わしくださいました。イエス様は私たちと同じ人間としてお生まれくださいました。そして、私たちの罪を担って十字架で死んでくださるための公けの御生涯をはじめるにあたり、罪のために苦しむ私たちと同じになるため洗礼をお受けになりました。私たちと同じ人としての苦しみに向き合ってください、私たちのために、それを担いきってくださいました。イエス様はマルコの福音書 10 章 38 節で、ご自分が十字架にかけられることを、「わたしの飲む杯」、「わたしが受けるバプテスマ」と言っておられます。

私たちが御名によって洗礼にあずかるとき、このイエス様とひとつにさせていただきます。イエス様は私たちと同じになってくださいました。イエス様は私たちと同じように、苦しみに向き合って、担いきってくださいました。人生の誘惑に会い、ジレンマや不条理、不公平や不義に直面し、私たちと同じように苦しみぬいてくださいました。そして私たちのかわりに、死の呪いを味わい、勝利してくださったのです。ヘブライ人への手紙 2 章 18 節に、イエス様ご自身が試練を受けて苦しまれたからこそ、試練を受けている人たちを助けることができなのです、と記されているとおりです。イエス様は遠くにいて、自分は傷つかない安全なところにいる、そこから無責任なアドバイスをくれる、という方ではありません。イエス様は私たちのところに来て、同じ苦しみを味わい、ご自身の死によって死を滅ぼしてくださいました。イエス様と、洗礼によってひとつにさせていただけるのは、なんと心強いことでしょうか。

第2に、イエス様が水から上がられると、すぐに天が開けて聖霊がくだったと記されています。天が開けた、というのは、神様が見えるようになる、神様のみわざが見えるようになる、ということです。神様は目に見えません。しかし、人となってくださったイエス様によって、私たちは天の神様を見るのです。ペンテコステの日に 3000 人もの人たちがイエス様のお名前によって洗礼を受けましたが、ペテロは彼らに「悔い改めてイエスの名によって洗礼を受けなさい。そうすれば聖霊を受けます」と説教をしました。神の霊、聖霊は今も聖書のみ言葉を通して私たちにイエス様を見せてくださいます。洗礼によってイエス様とひとつになるとき、天が開けて、まことの神さまがあなたに対してお考えになっていることがわかります。神さまはあなたの罪を、イエス様によって赦してくださるほどあなたを大切に思ってくださいのお方であることが確信できます。

第3に、天からの声が聞こえました。天の父なる神様がイエス様に「あなたはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者」と言われました。旧約聖書の詩編 2 編や預言者イザヤの書の 42

章1節にあるように、イエス様がみ父の御心にかなう御子としての使命をうけて、傷つき、闇に住む人を救い出す働きに送り出す言葉です。

私たちの残る生涯にも神さまは目的をもっておられます。罪深い世の中にあって、失望することなく希望をかかげることです。自分の未熟さ、人々の未熟さに腐ることなく、イエス様にある充実した喜びや感謝を生きることです。傷ついた人、心に明るさのない人の力となって、諸国の光であるイエス様のともしびを分かち合っていくことです。遠くにいて、自分は傷つかない安全なところからアドバイスをするのではなくて、人々の間に生きている出会いや出来事に向き合い苦しみや犠牲を自分の身に担って、ともに歩むことです。

今は世界全体に暗い雲がたちこめ、見通しのきかない困難なときです。このようなときに、私たちは洗礼によってイエス様とひとつにさせていただいて、私たちは天がひらけてまことの神様の愛と真実をつぶさに見せていただきます。イエス様は困難な人の苦しみや悲しみや誘惑や矛盾を体験者としてご存知です。ですからあなたの心の叫びを受けとめ、わかってくださり、そしてあなたと共にながれ道のを歩んでくださいます。イエス様は私たちの罪を担って、十字架で苦しみ、死んでくださいました。神さまが洗礼によってこのイエス様と一つになる者の罪を赦し、神の子としてくださるためでした。聖霊は聖書のみ言葉によってイエス様をわたしの救い主として信じる信仰を私たちのうちに造り、保ち、強めてくださいます。そして、この一年、厳しい予断を許さない現実の中で、元気を出して、人々に真実な神さまの変わらない慰めと励ましを証しして歩みます。人々の間に神さまの赦しといのちが宿ること、これが私たちの生きがいです。

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってください。アーメン。

聖餐の部

主の食卓を囲み 讃美歌 21 81 番 1 節 2 節

1. 主の食卓を囲み、いのちのパンをいただき、救いの杯を飲み、主にあって我らはひとつ。

<繰り返し> マラナ・タ、マラナ・タ、主のみ国がきますように。X2

2. 主の十字架を思い、主の復活をたたえ、主のみ国を待ち望み、主にあって我らは生きる。

<繰り返し>

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。

みこころの天になるごとく地にもならせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。

われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。

われらを試みにあわせず、悪より救い出されたまえ。
 国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

設定辞

「主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、感謝の祈りをささげてそれを裂き、『これは、あなたがたのためのわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい』と言われました。アーメン。

また、食事の後で、杯も同じようにして、『この杯は、わたしの血によって立てられる新しい契約である。飲む度に、わたしの記念としてこのように行いなさい』と言われました。だから、あなたがたは、このパンを食べこの杯を飲むごとに、主が来られるときまで、主の死を告げ知らせるのです。アーメン」

配餐 讃美歌 205 番、260 番、262 番

赦しの宣言

主イエス・キリストのまことのからだ、まことの血は、あなたをきよめ、あなたを強め、永遠のいのちにいらせてくださいます。あなたの罪は赦されました。安心していきなさい。

アーメン

主の食卓を囲み 讃美歌 21 81 番 3 節

3. 主の呼びかけに応え、主の御言葉に従い、愛の息吹に満たされ、主にあつて我らは歩む。

〈繰返し〉 マラナ・タ、マラナ・タ、主のみ国がきますように。X2

讃美歌 511 番 献金 献金感謝の祈り

1 みゆるし あらずば ほろぶべき この身、わが主よ あわれみ、救いたまえ、

〈繰返し〉 イエス君よ、このままに、われを このままに 救いたまえ。

2 罪の実 つもりて いさおば なけれど、なお主の血により 救いたまえ。〈繰返し〉

3 み恵み 受くべき 身にし あらねども、ただ御名のために 救いたまえ。〈繰返し〉

4 みわざを 世になす 力あるものよ、わが身も心も ならせたまえ。〈繰返し〉 アーメン

頌栄：讃美歌 543 番

主イエスの恵みよ、父の愛よ、御霊の力よ、ああ御栄えよ。アーメン

祝福の言葉

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しき

お交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、豊かにありますように。**アーメン**

後奏